

81 市町村時代

（注）人口と高齢化率は10月1日現在の毎月人口異動調査に基づく。面積は国土地理院、歳出規模と1人当たり地方債残高は06年度普通会計決算、製造品出荷額等は06年工業統計調査による

高森町



人口	1万3206人
面積	45.26平方キロ
歳出規模	48億9800万円
1人当たり地方債残高	54万6200円
高齢化率	26.6%
製造品出荷額等	272億1500万円

老朽化で耐震改修が必要と診断されており、町教委は「エコ改修は、環境に力を入れる町の考えとも合致する」と意

て学習や実験を重ね、最終的に十グループごとにエコ改修の構想案をまとめた。実際の改修計画には、このうち外断



「学校エコ改修」中の高森南小で断熱材入りの壁を見学する児童たち＝高森町

住民参加で校舎「エコ改修」

下伊那郡高森町が、高森南小学校（下市田）で校舎の「エコ改修」を進めている。環境省の補助を受け、地域住民が改修の過程にかかわりながら、省エネ効果の高い構造や自然エネルギーの利用など地球温暖化防止の知識を学び、改修後の校舎は「教材」として児童らの学習にも生かす試みだ。町は小学校を、環境重視の生活スタイルを広げる拠点と位置付けていく考えだ。

募を決めたという。着工前の〇五年、町は改修の基本構想を考える「学校エコ改修検討会」を設置。住民や地元の建設業者など約八十人が参加し、翌年六月まで計八回開いた。

省エネ効果を高める構造や無駄なエネルギーを使わない工夫、ペレットストーブなど自然エネルギーの活用について学校外にも及んだ。

温暖化防止の「教材」に

熱などの提案が採用された。

子どもが同校に通う泉沢昭平さん（44）は「実験を通じ、断熱の効果などが具体的に学べた」と振り返る。検討会に参加した町職員の提案で、夏の間、役場庁舎の窓ガラスを農作物の目よけ用の布で覆う試みが始まり、個人宅にも広がるなど、住民参加の効果は学校外にも及んだ。

改修では校舎の窓ガラスをすべて二重にし、内壁に県産材を多用。雨水を花壇の水やりなどに利用する貯水タンクも置いた。町教委の試算によると、改修後は温暖化につながる二酸化炭素（CO₂）の年間排出量を、改修前と比べ約21%削減できる見通しという。

学校側は、校舎そのものを環境学習と結び付けていく考えだ。西日本以南に生息するチョウ「ツマグロヒヨウモン」が町内でも増えていることをきっかけに、地球温暖化について学んでいる六年二組。担任の松下尚史教諭は「どうすれば温暖化を防げるか、子どもたちにはさらに考えてもらいたい。身近な材料として校舎

にも目を向けた」と話す。町はこれまで、買い物時のマイバッグ持参や、年に一度、家庭や商店の電灯を一齐に消して省エネを考えるライトダウン運動など、住民に環境保全の取り組みを呼び掛けてきた。町環境水道課は「エコ改修をきっかけに、学校と連携して子どもたちへの環境教育にも力を入れたい」とする。改修作業は来年三月まで続く予定。既に工事中の現場を訪れ、省エネ設備を見学した学級もある。町教委は「子どもたちが環境への関心を深めていけば、親や地域へも自然に波及していくはず」と期待を込めている。

（黒沢 大生）

「学校エコ改修と環境教育事業」 環境省が2005年度に始めた事業。県や市町村の小学校、高校の校舎を温室効果ガス削減につながる省エネ構造や自然エネルギーを導入して改修する際、同省が総事業費の2分の1を補助する。事前に地元の建築技術者が参加する研究会を設けて改修内容を検討し、校舎を活用した環境教育のプログラム作りなどを行うことが原則。これまで全国16校が活用している。